

くらしの願い一歩ずつ前へ

子ども医療費助成を小学3年生まで拡大

08年3月議会「対象年齢の拡大を求める陳情」に日本共産党をのぞく全議員が反対。その後もねばり強く運動を続け、4年間で3歳から小学3年生まで年齢拡大を実現。



鉄道駅のエレベーター設置

多くの皆さんから駅のエレベーターの設置を求める声がよせられています。鉄道事業者との直接交渉をすすめ、くぬぎ山駅や鎌ヶ谷大仏駅などのバリアフリー化に取り組んできました。



小中学校の耐震化を促進

4年前、17%あまりだった小中学校の耐震化率。子どもたちが一日の大半を過ごし、いざというとき避難所にもなる学校の耐震化を求め、58.8%まで向上させました。

その他にも・・・

- 妊産婦検診助成を5回から14回に拡大
- 学校・保育所・幼稚園など施設改善
- 市営住宅家賃減免制度の周知徹底
- 市の借金借り換えで3200万円の税金節約
- 新京成駅の無人化凍結
- 木下街道など、道路冠水の改善

日本共産党



子宮頸ガンのワクチン助成を実現

10代の女性への接種によりガン発生を予防できる子宮頸ガンワクチン。3回の接種で約5万円の費用がかかります。女性の命と健康を守る取り組みが実り、公費助成を実現。

日本共産党
緊急提案！

福祉と
防災

一体のまちづくりを

災害から命とくらしを守るためには、建物の耐震化などハード面での対応はもちろんですが、高齢者や子どもたちなど災害弱者をひとりにしないことが大切です。医療・介護・福祉・子育て支援などの力強いネットワークで、「福祉・防災を一体としたまちづくり」をご一緒にすすめましょう。

市民アンケート 要望トップ10

昨年10月から皆さんにご協力いただいた、市民アンケートについてご要望の多かったものをご紹介します。

1. 通学路の安全確保・整備 59.8%
2. 生活道路の整備、排水、交通安全対策 56.8%
3. 若者など市民への雇用支援 54.3%
4. 保育所の増設、待機児童の解消 50.9%
5. 商店街の振興、空き店舗対策 50.3%
6. 農業振興策 49.6%
7. 国民健康保険料の引き下げ 48.6%
8. 高齢者医療費の負担軽減 45.8%
9. 介護保険料・利用料の減免 40.3%
10. 中学卒業までの医療費無料化 39.5%

開発中心から生活中心へー緑ゆたかなうるおいあるまちづくり

鎌ヶ谷市では「駅前ピカピカ、生活道路はボロボロ」という駅前開発が中心のまちづくりがおこなわれ、無秩序な開発で、街から緑とうるおいが失われています。開発がすすむ地域とそれ以外の地域の格差拡大に歯止めをかけ、緑や景観、バリアフリーに配慮した生活中心のまちづくりをすすめます。

国保料、介護保険料、利用料を引き下げます

高くて払えない国民健康保険料、保険料を納めているけど利用料負担が重い介護保険も改善が求められています。国保料の1世帯1万円の引き下げ、介護保険料や利用料の減免制度など、国・県にも補助増額を求めるとともに、市独自の支援充実をはかります。

各市の子ども医療費助成制度（県まとめ）

	入院	通院
船橋市	小6	小3
市川市	小6	小6
松戸市	小6	小6
習志野市	小6	小3
八千代市	中3	小3
我孫子市	小6	小6
鎌ヶ谷市	小3	小3

中学生まで

75歳以上

医療費を無料に

40年前、日本共産党がはじめて国会で求めた乳幼児医療費の無料化、いま全国の自治体で広がっています。県内でも改善がすすんでいますが、近隣市と比較して鎌ヶ谷市の取り組みは立ち後れています。中学生までの拡大とあわせ、75歳以上の無料化も提案します。



生活道路、通学路の改善。学校の耐震化を促進。

今回そして4年前におこなったアンケートでも1位だった生活道路・通学路の安全対策・整備。議会でも繰り返し改善を求め、対策予算（年2000万円・5カ年計画）をつくらせましたが十分とは言えません。早急に求められている学校耐震化とあわせ、生活に身近な公共事業をすすめます。

- 30人学級の実現に向けて踏み出します。
- 公立保育所を増設し、待機児童解消をはかります。
- リフォーム助成制度をつくり、地域経済活性化と雇用促進につなげます。
- 高すぎる北総線運賃のさらなる引き下げ。
- 公共施設への「授乳・おむつ替えコーナー」の設置。
- 苦情がおおい防災無線の改善を求めます。
- 特別支援教育の支援体制を充実させます。
- 公契約条例を制定し、「官製ワーキングプア」をなくします。

いっしょにとり組みます。

市民が主役の鎌ヶ谷市の実現。
大災害の復興支援に全力を尽くす日本共産党にぜひご期待下さい。